

令和 5 年 6 月定例会

令和 5 年 6 月 23 日(本会議) 一般質問

1 地域経済の活性化について

(1)創業支援の充実について

石川: 今月、「湘南藤沢インキュベーション LABO」という、ものづくり系スタートアップ(ベンチャー企業)のためのレンタルラボが遠藤に開所しましたが、この施設は、地元の不動産会社が設立した全国的にも大変珍しい施設であります。この施設は、官民連携のインキュベーション施設とも言われていますが、まず、市として、どのような連携を予定しているのかお聞きかせください。

経済部長: 石川議員の一般質問にお答えいたします。

「湘南藤沢インキュベーション LABO」につきましては、藤沢で新しく生まれた企業が、市内に定着し、発展するための施設として大変貴重なものと認識しております。官民連携として、市内の公的インキュベーション施設を出て入居する企業には、上限75万円のポストインキュベーション支援事業補助金を交付するほか、他の公的支援機関等と連携して入居企業のニーズに応じた支援を進める予定でございます。また、空き室については、市内・市外を問わず、企業から新規事業用地確保に関する相談があった場合には、当該施設を紹介できるよう、継続的に連携を図り、企業誘致にもつなげてまいりたいと考えております。

石川: 次に、近年、市内でもレンタルオフィスやコワーキングスペースが増えてきていますが、起業を目指す方や起業したばかりの方の活動場所になっています。

こうした施設は、まだまだ知られていない、宣伝不足ではないかと思います。創業支援の充実の観点から、もっと積極的に市民に周知し、市としても施設側のニーズを把握できるよう、連携を深めるべきと考えますが、市の見解をお聞かせください。

経済部長: レンタルオフィス・コワーキングスペースにつきましては、本市でもコロナ禍をきっかけに、テレワークの推進の一環として、市のホームページでも一覧にして紹介するなどの周知を行っておりますが、市民の認知度は、まだまだ高くないと認識しております。

今後、改めて、各施設を運営する事業者のニーズを把握した上で、創業支援の観点からも、各事業者との連携強化を進めるとともに、地域経済団体とも連携して、起業家の活動場所としての周知を進めてまいります。

石川：市内の2つの公的インキュベーション施設には、起業支援の専門家であるインキュベーションマネージャー(IM)が配置されており、入居企業への手厚い支援が行われているようですが、その特徴や支援内容をお聞かせください。

経済部長：大学連携型インキュベーション施設である慶應藤沢イノベーションビルでは、本市が湘南産業振興財団を通じてインキュベーションマネージャーを配置しているほか、中小企業基盤整備機構や慶應大学からも1名ずつ、それぞれ経験豊かな方を派遣しているという特徴がございます。また、湘南藤沢インキュベーションセンターについては、藤沢商工会館内に開設し、財団職員が伴走型の支援を行っております。

各施設における支援内容は、ビジネスプランの作成支援、資金調達支援、販路開拓支援、契約・税務・労務に関する支援など、多岐にわたっており、必要に応じて関係団体や専門家などとも連携して入居者の支援を行っております。

石川：今後は、インキュベーションマネージャーを、レンタルオフィスなどにも派遣して、相談に対応するなど、創業支援の充実を図るべきと考えます。また、市内で活動するインキュベーションマネージャーやその他の起業家支援に関わる方々の交流を促進することも有意義であると考えますが、市の見解をお聞かせください。

経済部長：市内のレンタルオフィスやコワーキングスペースについては、独自に起業家育成講座を実施している例もあり、施設ごとに特色ある運営が行われております。

レンタルオフィスなどへのインキュベーションマネージャーの派遣については、施設運営事業者からのニーズも、あると考えております。それぞれの施設の特色に合わせて、どのように派遣ができるのか、インキュベーションマネージャーの資格保有者が在籍する湘南産業振興財団の協力を得ながら検討を進めてまいります。

また、オール藤沢で創業支援を一層進めていくため、市内で起業家支援に関わる方々の交流促進、ネットワークづくりについても取り組んでまいります。